

新たな公共交通の運行形態選定について

1 新たな公共交通の実施方針

(1) 自宅から近い乗降場所の設定

主な対象者は、高齢者であり、交通不便地域の多くの部分が傾斜地であるため、自宅から近い乗降場所を設定する。

(2) 湯河原駅(乗継拠点)、商業施設等への利便性の高い運行

乗換えの不便を考慮し路線バスのバス停まででなく、湯河原駅等の目的地に直接運行し、また、移動時間が路線バス以上に長くないようにする。

(3) 一定便数を運行

各エリア、午前、午後各2往復(4便)、1日合計4往復(8便)以上確保する。

(4) 財政負担に対し、効率的な運行

将来に渡り、新たな公共交通を持続するために、少ない財政負担で利便性の高いサービスを提供できる効率的な方法とする。

(5) 既存公共交通に影響が少ない方法

将来に渡り、湯河原町の公共交通網を維持・形成するため、既存公共交通に影響が少ない方法を選択する。

2 各運行形態の評価

		コミュニティバス	乗合タクシー	デマンド型交通
利用者の利便性	①自宅から近い乗降場所の設定	× 幅員の広い道路しか運行できないため、乗降場所は限られる。	○ 狭い道路を運行でき、居住地に比較的近い乗降場所の設定が可能。	○ 狭い道路を運行でき、居住地に比較的近い乗降場所の設定が可能。
	②移動時間	○ 乗降場所数が少なく、一定時間で移動可能。	× 乗降場所を多く設定するため、移動時間が長くなる。	○ 予約があった乗降場所のみ運行するため、短時間の移動が可能。
	③便数	× 1台の車両で運行する場合、便数が少ない。	× 1台の車両で運行する場合、便数が少ない。	○ 一定便数確保可能。
	④運賃	○ 一般的にデマンド型より安い。	○ 一般的にデマンド型より安い。	× 一般的に定時定路線型より高い。
	⑤利用時の手間	○ 予約不要	○ 予約不要	× 利用登録と予約が必要。
経費	①初期費用	×(大) 車両費等	×(中) 車両費等	○(小) 運行事業者の車両を利用する場合、車両費の初期投資がかからない。
	②運行経費	×(大) 運行経費が高い。	×(中) 運行経費が高い。 (コミュニティバスより低い)	○(小) 予約がある時のみ運行するため、経費削減が可能
	③採算性	×(大) 乗車人数が少ない場合、赤字が大きい。	×(中) 乗車人数が少ない場合、赤字が大きい。	○(小) 利用の少ない地区では、赤字が少ない。
既存公共交通への影響		× 駅まで運行した場合、路線バスとルートが重複する。	× 駅まで運行した場合、路線バスとルートが重複する。	△ タクシー事業者と競合する可能性が高い。 (運行方法により棲み分けが可能)